
ひとつひとより泣き虫で。

七浦彩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひとつひとより泣き虫で。

【Nコード】

N5144A

【作者名】

七浦彩

【あらすじ】

いきなり泣いて帰ってきた息子。

二つ不思議と負けず嫌い。
三つみんなに嫌われて。
四つ横顔膨れ顔……

「どうしたんだ」

俺の問いには答えずに、そいつはフンとそっぽを向いた。やつぱりいつもの膨れ顔。笑った顔をそっぴい最近見ない。

「……んでもない」

ああその声には覚えがあるぞ。泣きそうだから、言葉にすると涙が出そうだから、でも答えないと怪しまれるから、必死で搾り出すようなそんな声。

こういう時はほっぽっておくが一番。俺は煙草に火をつけて、そいつが座ったブランコの隣に座った。できるだけ顔を覗き込まないように。

ぽう、ぽう、ぽう、と煙が立ち昇る。丸っこくしてみる。ふうつと細く吹き出してみる。青い色に掻き消されて、煙はいつしか消えてしまう。

それを見るだけでもいいもんだ。泣きたい時は泣くがいい。俺がこいつに教えたのはそれだけ。

ぐず、ぐず、と鼻をすする音が聞こえる。

さてどうしたもんかねえ。ぽうぽうと空高く昇る煙が、いきなり魔法みたくなんな形になったら泣き止ませてやれるかね？

けれど自分で立ちあがれ。お前はそんなにヤワじゃないはずだ。

俺がそいつは保証するよ。

そうつと、ブランコから離れて、ふうつと煙草の煙を吹きかけてやる。うえ、と叫んで、そいつはげほごほ言い出した。

「何しやがんだっクソオヤジ！」

「はい、クソオヤジです」

ぶふう、と目に煙を直撃させる。家内^{あいつ}にや怒られるが、見られてなければ別にいい。

その丸っこくて、どうにも俺に似てる、似すぎていて正直困っている、俺のガキは、煙に涙を流した。しまいにやそれが元になって、ぼろぼろぼろ泣き出しやがる。

「お前にはどうせわかんねえだろっ」

「わかんねえなあ、言ってくれなきゃなあ」

「五組の佐々木のことなんか知らねエだろ！」

「あん、佐々木がどした」

「あいつ、あい、あいつ」

びええ、と泣き出して鼻水出して抱きついてくるガキンちよは、それでも力だけはあつて、腹にぼすんと重たい一撃を残した。

寝癖が頭のとっぺんでぴよこんとしてて、泣き方も、わけのわからない言い訳も、全て俺にそっくりそのまま、俺は苦笑しながら空を見やった。

五ついつでも俺だけは。

お前の味方でいてやるよ……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5144a/>

ひとつひとより泣き虫で。

2010年11月9日06時26分発行